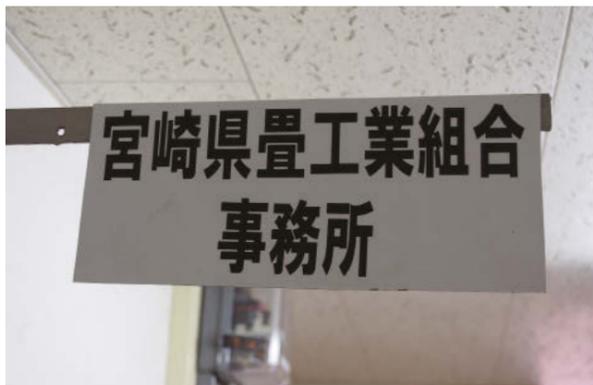




畳製作

写真) 浜田博ものづくりマイスター、受入担当の松山寛理事長、受講者のみなさん

ものづくりマイスター派遣先



宮崎県畳工業組合

〒 880-0902 宮崎県宮崎市大淀 3-5-16

南宮崎駅前ビル E 棟 2 階

理事長 : 松山 寛

組員数 : 58 名

組合技能士数 : 51 名 (H26.7 取材当時)

畳製作は、昭和の高度成長期の頃から機械化が進み、昔ながらの手縫いで仕事をする機会は、今ではほとんどの畳店でなくなっています。20 年以上の経験を持つ職人でも、自ら率先して学ばない限り、手縫いの作業を経験することがありません。しかし、畳製作の基本は手縫いにこそあり、そこに様々な技術・技能が集約されていることから、技能の向上や応用においても、手作業を学ぶことには大変に意味があります。当組合では、若手職人の技能教育に力を入れている中でこの制度を知り、ぜひ活用したいと思い、ものづくりマイスターの派遣を依頼しました。

実施期間	6 月～8 月
実施場所	宮崎県技能検定センター
受講者数	16 名

昔ながらの手縫いの技を伝えて 技術の向上と畳文化の継承に繋げる

ものづくりマイスター 浜田 博

深い指導を行うために 個別指導できる環境を作った

依頼を受けた宮崎県畳工業組合の松山理事長とも協議して、同組合で取り組んでいる後継者育成の方針や、これまでに実施された技能講習の内容を把握することから始めました。カリキュラムは畳製作に関し、過去に出題された技能検定や競技大会の課題を参考にして、手縫いで 1 枚の畳を仕上げる工程を基本としました。

畳 1 枚を手縫いで仕上げる工程には、寸法を測り、畳を切り、框（かまち:畳のヘリがついていない部分）を縫って完成させるところまでに様々な技能が含まれています。やってみると、自分の得手不得手が分かってきますので、時間がかかってしまうところは、なぜそうなるのかなど、自らの実力を把握して不得手を改善していけるように、また、実技では個別指導できるような環境を作りました。

手縫いの経験がほとんどない若者に、1 日や 2 日の講習でその全てを伝え、身に付けてもらうことは到底できないのですが、丁寧に繰り返し指導していくことを心がけました。受講者数が多いときは、私だけでなく、指導の補佐を付けてもらうように依頼し、協力体制をとってもらいました。

技能習得は「根気よく、丁寧に」

受講者が予想外の動きをしたり、意外な質問が出たりしたことがありました。考えてみれば、これまでに経験したことのない作業に取り組むのですから、無理のないことなのでしょう。指導する立場としては、根気よく、やはり一つひとつ丁寧に伝えていくことが大切であると感じています。

畳を敷く場所に最も合うものを 「考えながらつくる技能」が重要

同じ材料を使って製作しても、作り手によって仕上がりに微妙な違いが出てきます。機械でも手縫いで同様です。大事なことは、畳を敷く場所にに応じて、その場に最も合ったものとなるように考えながら仕上げていく力を付けることです。技術に加え、段取りよく進めていく技量も必要ですので、受講後も常に自らを高めていく気持ちが持てるような「気構え」も伝えていけたらと考えています。

また、指導者としては、粘り強く教えることが大切です。自分のやり方が全てではありませんので、そのことを念頭に置いて指導に当たることが大切ではないでしょうか。受講者の方は、まず自分で学んで、自分自身を高めようという姿勢を持つことが大切だと思います。素直な心を持って学ぶことは、技だけでなく、人としての成長にもつながると信じています。



ものづくりマイスター

浜田 博 (はまだ ひろし)

昭和 24 年 11 月 24 日 生まれ

昭和 53 年度 1 級技能士 畳製作 (畳製作業) 取得

平成 25 年度 厚生労働省ものづくりマイスター (畳製作) 認定

幅広い視点から仕事に役立つ 手縫いの技術を身につける

受入担当者 松山寛 理事長

講習の時間が濃密なものになるよう、 真剣に取り組んだ

「ものづくりマイスター制度」は、宮崎県職業能力開発協会の関係機関参集による説明会を通じて知りました。当組合では日常的に技能講習を実施しており、会場の1つが同協会と同じ場所にあることから、さらに詳しい情報もいち早く知ることができ、ものづくりマイスターの派遣に踏み切りました。

私どもでは、お客様に良い畳をご提供することが最も大事なことだと考えており、日頃から組合員の皆で協力して、業界全体のレベルを上げていくことを話合っていますので、この取り組みを推進することに苦勞はありませんでした。ただ、多くの畳店が少数で営業していますので、受講者を送り出すことは、各店に負担をかけることになります。そこで、より有意義な講習となるように、開催する側はもちろん、受講者にも時間を大切にしながら真剣に取り組んでもらえるような働きかけに注力しています。

手縫いを直接指導してもらえる貴重な機会

現在の畳製作は機械を使って行うことが大半ですが、手縫いの技を求められることがありますし、作業の流れの意味を知るうえでも、手縫いを学ぶことが大切です。また、新たな製品づくりやより良い製品づくりを目指すとき、手縫いの技術が身に付いていれば、そこから応用させて発想することもできるなど、幅広い観点から仕事に役立ちます。この手縫いの技術をものづくりマイスターから学べるのですから、とてもありがたいことです。さらに、他店の同世代の仲間の作業の様子に触れられることも、技能講習のメリットだと思います。

ものづくりマイスターの存在は 業界のアピールになる

若い職人の技能向上に力を入れている組合にとって、この制度は大変に意義のあるものですので、ぜひ活用されることをお勧めします。

また、「私たちの業界には、ものづくりマイスターと呼ばれる熟練技能者がいて、その人たちが後進の育成に力を入れている」ことをお客様にアピールできる機会にもなると思います。



写真) 浜田マイスターの指導の様子

技能をきちんと継承し受け継いでいきたい

受講者の声

技能を身につけることで 仕事のバタリティがひろがる

日常の仕事では機械しか使わないため、どうやって手で縫えばよいのか分かりませんでしたし、畳職人として、身に付けておきたい技術・知識を修得したいと考えて受講しました。将来的には、畳製作の技能検定を受検したいと思っています。

講師の方々の方針と、針を持たない方の手の使い方などに感銘を受けました。同時に、手縫いの畳は、機械で作ったものと見栄えがすいぶん異なることにも驚きました。四角い畳以外の円形や三角形の畳については、手縫い以外で作ることはできず、これから畳を広めていく色々なアイデアにもつながり、受講して本当によかったです。

手縫いの技法として、例えば、畳床を切るときに包丁の角度、返しわらの入れ方、床薄べり平刺しの糸の締め方など、匠の技を間近で見られたことが特に参考になりました。また、手縫いの技法は、機械で畳を製作するときにも参考になります。自分の職場では学べないことを教えていただいたことに、大変感謝しています。

「この技術を継承しなければ」と感じた

試験勉強のためといった心持ちで始めた「畳の手縫い」技能は、合格したら恐らく忘れてしまうでしょう。しかし、浜田マイスターからご指導いただく中で、この素晴らしい技能は、継承しなければいけないと考えようになりました。技能検定試験の合格は職人としてのゴールではありませんので、今後はこの技能を忘れないように、後進に指導ができるくらい、ブラッシュアップしていきたいと思っています。



写真) 実習で製作した畳とともに

【地域技能振興コーナー担当者より】

若年者のものづくり離れが進んでいると言われる中、宮崎県畳工業組合さんや、ものづくりマイスターの浜田さんのように、後継者の育成に使命感を持って熱心に取り組んでおられる方々と、この制度に取り組めたことを、とても意義のあることと感じています。全国的にもさらに活用が広がることを期待しています。

カリキュラム

	指導日	指導内容
1	6/3	畳の寸法取り、寸法の割出し及び割付
2	6/4	框(かまち)裁断、平差し縫い
3	7/17	平差し縫い、返し縫い
4	8/18	返し縫い、畳の敷き込み